

用賀中だより

～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより 2月号 令和8年 2月吉日

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校

校長 毛利 慎治

(スマホでも読みやすくなるようレイアウトを試行しています)

見えない力が未来をひらく

～非認知能力がすべての学びの土台に～

ようかの学び舎 世田谷区立用賀中学校

校長 毛利 慎治

少しずつ日が伸び、春の訪れが感じられるようになってきました。子どもたちは今、次の学年に向けて、意欲的に学習に取り組み、日々の生活の中で目標をもって過ごしています。

朝の時間、静かに本を開いて読書に集中する様子や、授業にしっかり向き合って学習に取り組む姿からは、子どもたち一人一人の内面にある成長が感じられます。少し前までは落ち着かない様子もありましたが、今では目標に向けて取り組み、発表に自信をもって臨んでいる様子に「本当に立派になってきたな」と感じる場面が日々増えてきました。

この一年、子どもたちは本当にたくさんを経験し、挑戦し、一步一步成長してきました。時にはうまくいかないこともありましたが、それもまた大切な学びです。そうした日々の積み重ねの中で育ってきたのが

「見えない力」とも呼ばれる非認知能力です。

本校は今年度、世田谷区教育委員会から研究指定を受け、「見えない力が未来をひらくー非認知能力が育む自己肯定感と自主性ー」をテーマに、全校をあげて取り組んでまいりました。

非認知能力とは、「主体性」「協働性」「自己管理能力」「セルフコントロール」「コミュニケーション力」の5つを指し、テストの点数には表れにくいけれど、すべての学びや人との関わりを支える根っこのような力です。

そしてこの非認知能力は、今まさに世田谷区が推進している「キャリア・未来デザイン教育」の土台として明確に位置づけられています。興味・関心に根ざした学びや探究、地域との関わりなど、これからの時代に必要とされる教育の中心に、この「見えない力」があるのです。

1年生は、河口湖での移動教室や牧場体験、水族館でのふれあいなど、「本物にふれる」ことを大切にしたい体験に取り組みました。最初は不安そうだった生徒も、

「やってみたらできた」「自分で作ったうどんがおいしかった」と笑顔で語る姿が印象的でした。そうした小さな「できた」の積み重ねが自信へとつながっています。

2年生は、地域の職場での体験学習に出かけました。スーパーや保育園などで働く方々と関わりながら、「どうすれば相手に伝わるか」「昨日の自分より今日は少しうまくなった」といった気づきがたくさん生まれました。生徒のふり返しには、「苦手だったけど、あいさつ

が自然にできるようになった」という言葉もあり、自分の変化に気づける力＝メタ認知が育っていることが感じられました。

3年生は、「一人一役」を原則とした行事運営に取り組みました。運動会や合唱コンクール、修学旅行などで、それぞれが役割をもち、責任を果たす中で、「自分の仕事がクラスに役立っていた」「人のために動くって気持ちいい」と語る姿がありました。ふり返りを通して自分を客観的に見つめ、次にどうしたいかを考える力が確実に育っています。

全校で取り組んでいる「今未来手帳」や「マンスリーキャリアシート」、「私の通知表」は、期間ごとのふり返しを通して、自分の行動や感情を言葉にする活動です。自分の未来を見すえた言葉をたくさん見ることができ、ふり返りの積み重ねが、自然と自己理解や学びの見通しを育ててくれています。

また、地域と協力して取り組んだ側溝清掃ボランティアや机の天板交換作業では、多くの生徒が自主的に参加し、「ありがとう」と声をかけられたことが誇らしげな表情へとつながっていました。「役に立てた」「またやりたい」という気持ち生まれ、自分の存在が誰かのためになっているという実感＝自己有用感と自己肯定感の高まりを感じました。

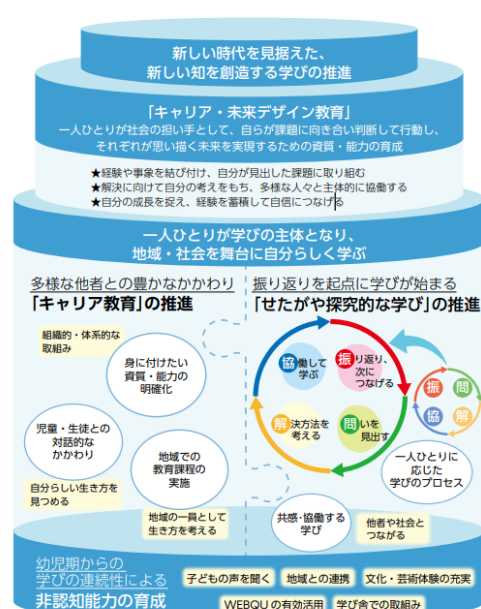
2026年1月に発表されたイー・ラーニング研究所の調査でも、全国の保護者の約6割が「非認知能力の育成を最も重視したい」と答えています。「思考力」「挑戦する姿勢」「プロセスを大切にする学び」への関心が高まっており、「コミュニケーション力」や「探究心」を育ててほしいという声も多く聞かれました。

本校がこの1年取り組んできた内容が、社会のニーズと重なっていることに確かな手ごたえを感じています。

非認知能力は、目には見えないものですが、生きていくうえで大切な「人としての根っこ」です。この1年、子どもたちはさまざまな場面で「やってみよう」「こうすればよかった」と、自分を見つめ、前へ進む姿をたくさん見せてくれました。

もうすぐ年度の終わりとなります。ご家庭でもぜひ、お子さまと一緒に1年の歩みをふり返ってみてください。「できるようになったこと」「変化したところ」に気づき、どうぞあたたかい言葉をかけていただけたらと思います。これからも用賀中学校は、生徒一人ひとりの「見えない力」を大切に、地域とともに学びを育ててまいります。

世田谷区教育振興基本計画（令和六、十年）
十ページ「キャリア・未来デザイン教育」より

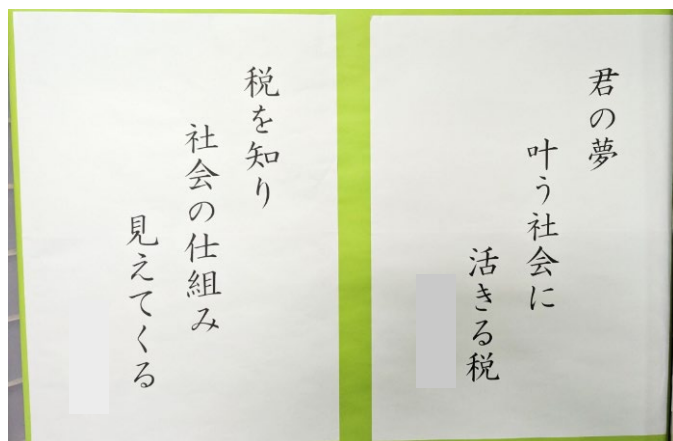


<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/10756/pamphlet.pdf>

税の標語 作品を掲載いたします。

二年生は身の回りの税の大切さについて、標語で表しました。表彰作品がありますので、紹介いたします。

玉川間税会「税に関する標語」



税の作文 作品を掲載いたします。

玉川納税貯蓄組合連合会 広報部の村上 妙様より、「税の作文」で賞を獲得した作品をデータにして送っていただきました。生徒やご家庭の皆様、読んでくださる地域の皆様にも私たちの身近にある税の存在やその意義について、あらためて考える機会となれば幸いです。

広報部の村上様は用賀中学校の租税教室の受講や税の作文に取り組む様子に驚いていらして、意識や向学心が高いと、このように賞賛される言葉をいただきました。

玉川納税貯蓄組合連合会 広報部の村上でございます。玉川税務署より受賞者の作品をお預かりいたしましたので、お送りいたします。

生徒の皆さまが鋭い感性で、税にも関心を持って取り組んでくださっていることが、いただいた全ての作品から強く伝わってまいりました。私どもも大変感心いたしました。

また、中学生の「税についての作文」の取り組みに対しまして、先生より温かいお言葉を頂戴し、税務署、当会といたしましても大変励みとなりました。

今年も、夏休み頃にあらためてお願いに上がる予定でございます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

広報部 村上 妙

令和7年度 中学生の「税についての作文」優秀作品 「プライマリーバランス」と私たち

世田谷区立用賀中学校 三学年 T . S

「ああ、税金が無ければ。」

税は私たちの社会を支えていると思いつつも、ショッピングをしている時や、お金がギリギリ足りなかった時、誰もが一度はそう思ったことがあるのではないのでしょうか。私も、正直に言えば同じような経験をしたことがあります。消費税のせいであきらめたことがあり、そのときは、なんだか少し損をしたような気持ちになりました。でも、学校で税金についての授業を受けて、考え方が変わりました。税金の仕組みや使い道について学びながら、「プライマリーバランス」という言葉を知りました。それは、聞いたことのない言葉でしたが、授業を受けていくうちに、日本の将来にとってとても大切なことだと気づきました。

プライマリーバランスとは、国の収入「税収等」と支出「歳出」とのバランスのことです。現在の日本は、このプライマリーバランスが長年赤字の状態、税金などの収入だけでは足りず、借金に頼って支出をカバーしているのが現実です。このままでは、将来私たちの子供の世代にまで大きな負担がのしかかってしまうかもしれません。しかし一方で、税金を増やしすぎると、今の私たちの暮らしが苦しくなってしまいます。つまり、どちらにしても私たちの生活に影響がでてしまうのです。だからこそ、ただ「税金が高い」と不満を持つだけでなく、理解していくことが大切だと思いました。私自身、税金に対して「めんどくさいな」と思っていたことがありましたが、プライマリーバランスの話を知ること、その重要性に改めて気づきました。税金はただの負担ではなく、社会を支え、私たちの生活の安全や安心を守るための大切な役割を担っていると思います。例えば、税金によって新しい学校、スポーツ施設、公共インフラなどもつくられています。これらのシステムがあるからこそ、私たちは日々安心して暮らすことができているのだと感じています。

将来、私が社会に出て働き、税金を納める立場になったとき、授業で学んだことを思い出し、よりよい社会を作るためにちゃんと自分の意見を持ち、積極的に行動していきたいと思っています。そのためには、今から税金について無関心ではなく、理解を深め合っていくことが重要だと強く感じています。また、税金や経済の知識は、ニュースや政治の動きに対しても関心を持つようになり、中学生である私たちも社会問題に対して関心を持てるようになるきっかけになると感じています。

最後に、私がこれから大切にしたいのは、税金やプライマリーバランスにしっかりと向き合うことです。税金について学ぶことができ、まだまだだと思うけれど、少しでもより良い社会づくりに参加できたらと思います。これからも税金を払う一員、社会の一員としての責任を自覚し、もっと勉強していきたいと思っています。未来の社会をよりよくするために、積極的に参加していきたいです。

令和7年度 中学生の「税についての作文」優秀作品 未来を守るための税金

世田谷区立用賀中学校 三学年 S . S

私は一学期に学校で、「租税教室」を受けました。講師の方から国の収入の多くは税金でまかなわれていること、その使い道について説明を受けました。特に社会保障や教育など、私たちの生活に直結する分野が多いことを知りました。

身近な例として、私たちが通う学校の建物や教室、冷暖房の設備、体育館、図書室の本などは、国や自治体が税金で整えています。授業で使う教科書も無料で配られますし、修学旅行や校外学習の交通費の一部も補助されています。これらはすべて税金がなければ実現できないことです。

また、先日家族で広島の祖父母の家に遊びに行ったとき、高速道路や大きな橋を通りました。特に島をつなぐ長い橋は景色が素晴らしく、安全で快適に走れる道路があるのは、維持管理に税金が使われているからだと感じました。空港や港も税金で整備されており、こうしたインフラがあるからこそ、私たちは遠くの町へ簡単にいくことができます。

さらに、税金の使われ方を家庭でも感じる出来事がありました。今年の3月、父が住宅ローン減税を受けるために、初めて電子申告で確定申告をしました。マイナンバーカードを使い、インターネット上で申告を行い、税金の一部が戻ってきました。父は「税金はただ払うだけでなく、条件によっては戻ってくる制度もある」と話してくれました。こうした制度も国が整えているのもので、私たちの生活に関わっています。

今回の経験を通じて、税金は私たち中学生にも深く関わっていることを実感しました。もし税金がなければ、学校の施設は古いままになり、道路や橋は安全に使えなくなり、公共のサービスも減ってしまうでしょう。税金は、今の生活を支える土台であり、未来への投資でもあります。

私はまだ税金を納める立場ではありませんが、将来働くようになったら、自分の納めた税金がどう使われているのかに関心を持ち続けたいと思います。そして、そのお金が本当に必要なところに届き、多くの人の生活を支える社会であってほしいと願います。税金の使い道はニュースや行政の発表で知ることができますが、これからはそうした情報にも目を向け、自分の意見を持つことが大切だと思います。普段の生活の中でも「これは税金でできているのかな」と考える習慣を持てば、社会の仕組みをより深く理解できるはずです。

「租税教室」での学びは、税金を「取られるお金」ではなく「みんなで未来を支えるためのお金」と考えるきっかけになりました。いつか自分も責任ある納税者として、この国の土台を守る一人になりたいです。そして、その時には今の私が感じた「支え合う温かさ」を忘れず、未来の子どもたちにも誇れる社会をつくっていききたいです。

年金の講座、感想を掲載いたします

3年生は日本年金機構の方を講師としてお招きし、公的年金制度について学びました。これは3年社会科公民の経済分野、財政の学習内容と関わりや、現代社会の特色と私達という单元とも結びつく学習内容です。

生徒は様々に年金制度があり、その存在意義などを新たに知ったり、考えたりすることができた様子でした。

生徒の振り返りを紹介します。

○年金 = 老後というイメージが大きかったですが、受けたことで自分のもしもの時や老後生活で重要になってくることが分かり、きちんと制度を理解して20歳から払っていきたいと思いました。

○年金は老後だけのものだと思っていたが、学生から関係があると知り、驚いた。また免除の方法を知ることができてよかった。

○年金が払えなくても、学生納付特例制度があるので安心した。父や母にも話してみたいです。

○年金は老齢年金だけだと思っていたが、障害年金や遺族年金もあることを知り、年金に対する見方が変わった。年金は平等でとても良い制度だと思った。

○思っていたよりも年金は大切だと分かった。このことを20歳まで覚えておきたい。ガクトクを忘れないようにしたい。

○お忙しい中ご来校してくださりありがとうございました。今日のセミナーを受けて、年金に対してマイナスなイメージを持っていたのが将来自分に返ってくると知り、プラスなイメージになりました。とても分かりやすかったです。

○初めは年金についてあまり知りませんでした。お話を聞いて年金の大切さや国民年金、厚生年金を支払うことが必要などだと、これから知る必要がある情報を多く知れました。

○年金についてのお話を聞く機会があまりないので、今回年金について知ることができて良かったです。年金について他人事だと思わないでいきたいです。

○資料や映像説明がとても分かりやすかったです。今回のセミナーを通して年金の制度について様々な興味が湧きました。将来のためにも色々調べてみようと思いました。

○今まで知らなかった年金のことを聞いて、将来への不安が少し和らぎました。とてもためになる授業を行っていただきありがとうございました。

○説明が分かりやすく、年金がどのようなものなのか知らなかったのですが、今後は年金について知ることができたことを生かし、20歳になったらのことを考えてみたいと思いました。

玉川納税貯蓄組合連合会、玉川間税会、日本年金機構の皆様には、実際には難しい税の内容を生徒にわかりやすく話してくださいました。

どうもありがとうございました。

「非認知能力の育成」 研究発表がありました。

用賀中学校では令和7年度、世田谷区の研究指定校として「非認知能力の育成」の研究を進め、1月26日に「せたがや探究的な学びメッセ」で、宮良主任教諭、石川主任教諭により発表いたしました。



(発表の様子)
オンラインで
区内全ての区立
小中学校に配信
されました。

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校

令和7年度

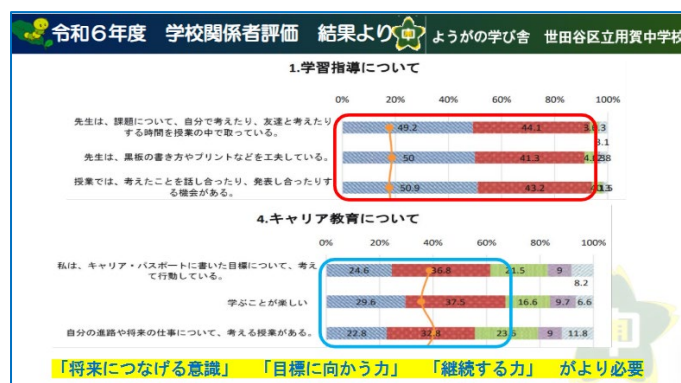
『非認知能力の育成』研究指定校発表

「見えない力で未来をひらく」

— 非認知能力が育む自己肯定感と主体性 —

ようがの学び舎
世田谷区立用賀中学校
研究代表 宮良 信光 ・ 石川 慧

これは昨年度の「令和6年度 学校関係者評価」の結果を受け、学習や行事には非常に前向きに取り組む生徒の割合が高い一方で、その学びや体験を将来に結びつけていこうという意識や行動にさらなる伸びしろがあることが分かったためです。



研究の方法として、これまで用賀中だよりなどで発信してまいりました「今未来手帳」などの日常の振り返りを中軸として、教員相互の授業観察とフィードバックを行う「研究バディ」、日頃から「見えない力（非認知能力）」を意識させた取り組みを行うと共に、その定着や意識について質問する「見えない力のアンケート」などを行うことで、研究仮説の実証を進めてまいりました。

研究の方法

研究バディ

日常の振り返り

見えない力のアンケート

学校全体で体系的に進める

研究バディ

- 自己の授業改善を通して、授業力の向上をめざす。
- OJT を推進し、教員相互の授業観察を活発にする。

教科等 × 自己肯定感、コミュニケーション力、主体性、自己管理能力、セルフ・コントロール = 日常の授業から育成する「非認知能力」

日常の授業から意識して、生徒が「非認知能力」を働かせられるように授業デザインをしてきました。

また、各学年にある「大きな行事」では、事前指導から振り返りまでを通して、非認知能力を高める大きなプロジェクトとして、意図的・計画的に行いました。

1年生の一例は、河口湖移動教室「本物に触れる」
2年生は職場体験「体験を通してプロから学ぶ」
3年生は「行事での全員1人1役」での自己有用感
また、地域で育む取り組みとして、ボランティア活動も生徒は非常に良く取り組み、よい顔を見せていました。

地域と連携・自己有用感

天板交換 ・側溝清掃 等

おやじの会（地域の方々）と行いました。地域交流と貢献により、自己管理能力や自己肯定感、自己有用感を自ら高め、地域の励ましによりさらに育成・向上させました。

「主体性」により自ら育成する「自己肯定感」「自己有用感」。

めざす生徒像

○ゴールイメージをもてる生徒

○自立した学習者

これからも、「めざす生徒像」の実現を学校・家庭・地域で、力を合わせて行いたいと思っています。皆様、今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。